
キモス和夫烈伝

星アヤメ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

キモスと夫烈伝

【Nコード】

N8713A

【作者名】

星アヤメ

【あらすじ】

この主人公キモスこと、新井和夫は二トだったが今日からある特殊な仕事につくという。その道程はいかに！！

前章（前書き）

初めて書いたのでつまらないかもしれませんがそのへんは注意してください。

前章

ジリリリリリ…ドン…。

「あと5分だ

けねかふうい…。」

ドドドドボタン…！

「早く起きろ

このバカ蔵が…！今日から仕事だろおがああ…」

なんとも慌ただしい朝である。今寝てる俺はずっとニートだったが、今日からある特殊な仕事に就くことになった新井和夫である。

「あんたねー早

く起きて飯食ってクソして寝な！ボケ！って間違っただじゃねーかよ」

バシバシ…！と竹刀を振り下ろす音が家中に響いている。

「痛いて、痛いて、マジ勘

弁してけるお…」

「わけわかんない言葉使ってないで早く起きなさい！」

ホントにあのババアは手加減しないんだから全く。

はあ…今日から仕事だけど、行きたくないんだよね。

朝ご飯を食べながら全くやる気のない和夫に対して母が竹刀をブンブン振り回していた。

さすがに恐い和夫は母から逃げる様に行ってきたーすと家をでた。

しかもダッシュだ。光よりも早そうなくらい。

まぶしい朝日が目にしみそうな今日この頃、和夫はニートを卒業し仕事に向かっていた。いや道に迷っていた。

「はあ…つか俺場所知らねー！！。どうしよう誰か助けてえー！
！って叫んでも意味ないし、やっぱり帰ろう。うん。帰ろう。」

と街中で余裕で一人事を言いまくってい

るキモス。いやいや和夫は既に帰る気満々である。

「仕方ねーよな。母さんに紹介してもらった仕事だけど、あんたにピッタリの仕事よ！とか言いながら場所とか言ってないじゃんか。」

「そうだ逆にキレてもいいかもな、場所言ってねーだらおおがバカヤロー！！って、朝の竹刀の恨みは忘れないぜ母よ」

くっくくくつと鼻で笑いながら歩くバカ、いやキモス、いやいや和夫は自分がダッシュで家を出た事を完全に忘れていた。

街中を和夫がスキップかと思うくらいながら歩いていると突然目の前に野球のユニフォームを着たオヤジが現れた。「今日は帰ってゲームしようって うわああ！！！！つーか前から変なやつ歩いてきてるし。何で野球のユニフォームなんか着てんだよ。しかもサイズあってねーだろ。裾とかマジ短い。」

気分悪くなるよマジでといいながらすれ違った瞬間、和夫は氷ついた。いや石化した。

「と、父さん……。いや父さんは一カ月前死んだはずなんだ、絶対父さんなわけがない。でもあの野球のユニフォーム確実に俺の小学校の時のものだ」

声をかけようと迷いながら立ち止まっているキモス。いやいや和夫は自分の目がおかしいんだ！といいながら声をかけるのを止めた。

続く

前章（後書き）

もしよかったら評価をお願いします。読んでくれてありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8713a/>

キモス和夫烈伝

2010年10月11日11時30分発行